

〔教育方針〕

- (1) 学校は、児童のためにあることを強く認識し、何事にも児童優先の考え方を貫く。
- (2) 日滝小学校の教職員であるという自覚を常に持ち、学校を愛し、一人一人の児童を愛し、その健やかな成長を願い情熱を傾ける。
- (3) 教職員は、児童の健やかな成長に寄与するために、すすんで研鑽に励むことで自らを高め、率先垂範を旨とする。
- (4) 「教育」は、「共育」、すなわち「共に育てる」ことであるととらえ、保護者・地域社会・教育関係諸団体および関係諸機関との連携を強化し、共に児童の健全育成にあたる。
- (5) 「和して同ぜず」という真の同僚性を高め、相互信頼による協力体制を確立する。
- (6) 校地・校舎を愛護し、きまりよく整然とした学習環境の維持に努める。

学校教育目標

いきいきとみんなが励む明るい学校

願う子どもの姿

- ① 進んで学習する子ども（意欲と実践力）
- ② ねばり強くやり抜く子ども（継続心と達成感）
- ③ 友だちを大事にする子ども（協力と友情）
- ④ 奉仕の心を持ち、みんなのために働ける子ども（勤労・奉仕）
- ⑤ 健康で明るく生活できる子ども（体力）
- ⑥ 自然を愛する子ども（情緒力）
- ⑦ 地域を愛し、誇りに思える子ども（郷土愛）

本年度の重点

合い言葉

「本 あいさつ 外遊び いっぱい」

〔地域の実態〕

- (1) 校庭から眺望できる北アルプス・北信五岳をはじめ、果樹園等に囲まれた豊かな自然環境
- (2) 八木沢川の扇状地に古くから開けた土地は、住宅地と果樹園が混在している地域
- (3) 長野市・須坂市のベッドタウンとして集合住宅や分譲住宅などが増加している地域
- (4) 伝統ある学校に対する期待が大きく、協力的な地域・PTA

〔教育課題〕

- (1) 自ら課題を持って、進んで学習や活動に取り組むことができる子どもの育成
- (2) やるべき事の大切さを自覚し、ねばり強くやり抜くことができる子どもの育成
- (3) 人の気持ちを思いやり、優しく手を差し伸べることができる子どもの育成
- (4) 奉仕の心を持ち、清掃に取り組むことができる子どもの育成
- (5) 笑顔で、大きくはっきりと挨拶や返事ができる子どもの育成
- (6) 自然を愛し、進んで自然とふれあうことができる子どもの育成
- (7) 地域を愛し、誇りに思うことができる子ども育成

保護者・地域との連携・交流

- 保護者への情報提供（学校・学年・学級だより、ホームページの有効活用）
- 幼保小、小中連携活動の推進
- 学校評価制度の活用
- 地域の人的・物的資源の活用
- 保護者・地域の方の学校支援ボランティア、地域講師の活用（公民館などとの連携・交流委員会の効果的な運営など）
- 平成29年度の信州型コミュニティースクールの設置を目指し、準備を進めていく
- 地域に開かれた学校作りに努め、地域とともに子育てを推進していく。

全校研究テーマ

「わかる」「できる」喜びを感じる授業の創造

「分かる授業」の日常化

- 表現力の向上をめざした授業改善
- 授業公開の日常化（一人一課題・一研究・数回の公開授業実施）
- 基本的な学習習慣・学習姿勢の定着と家庭学習の習慣化をはかる指導
- 「ねらい、めりはり、見とどけ」を生かした授業づくり
  - ・ 確実な課題把握
  - ・ 多様な学習活動の展開
  - ・ 自己評価等による学力定着の確認
- NRTなどの客観的テストによる評価と活用
- 各自の専門性を活かした授業交換（一部専科制）

日課表・学校行事などの工夫

- 水曜、放課後に位置づけた「復習タイム」を有効に活用した個別指導の確保
- 朝の時間に位置づけたドリル学習の推進
- 朝読書の充実と読書活動の推進
- 学校行事の内容の工夫（児童の主体性がより発揮される行事）
- 諸会合の効率的な運営
- 教務会の運営方法の工夫
- 学年会・連学年会の充実**
- 連・学年会の連携と協力強化
- 連学年活動や学年の枠を越えた活動の工夫

学力向上策

- (1) 授業改善を進めるための重点的な取組
  - ・ 授業がもっとよくなる3観点を意識して特に「見とどけ」に重点をおき、授業のまとめを5分間位置づける。
- (2) 児童につける力が身についたかどうかを評価するための検証方法
  - ・ 家庭学習に重点をおき、全国学力・学習状況調査にある「家で予習・復習をしているか」の項目で、県平均を上回るようにする。
- (3) 基礎基本の定着と応用力・表現力を伸ばす工夫
  - ・ 朝のドリル学習の時間や復習タイムの時間を通して基礎学力の定着を図る。また読書を通して読解力・表現力の充実を図る。